



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



鉾島と星空（2019年2月24日 福井市南菅生町 撮影：学芸員 加藤英行）

福井の自然史情報

ほこじま 鉾島で見られる美しい星空

福井では市街地から少し離れると、星をよく見られる場所が多くあります。越前海岸にある鉾島は、柱状節理が見られる巨大な岩塊で、周囲は80m、高さは50mほどあります。夜はその雄大な姿と共に、満天の星が見事な景色をつくりだします。



当館マスコットキャラクター
「シジュウオ」

中面に関連記事があります。

2020年夏季企画展

福井の星空から
生まれた

星空アート展

星空に思いを巡らせよう!

晴れた夜、星空を見上げて宇宙に思いを巡らせたことはあるでしょうか?

本展では、福井で生まれた星空や宇宙をモチーフにした作家たちの作品（陶芸・ガラス工芸・絵画・漆器・写真・書）と共に、インスピレーションをわかせる福井の星空風景を紹介。身近な星空、宇宙の魅力をお伝えします。

開催期間 令和2年7月18日(土)～9月27日(日)

同時開催展

“たけいさきよ まあるい星展”

山梨県在住、星のソムリエ・星空案内人の天体写真家・たけいさきよ氏による写真展。円形の視野を持つ特製のカメラを使った天体風景写真作品を展示。10年に渡り山梨の四季を撮影した宙ガールの感性をお楽しみください。



たけいさきよ氏



しらびその夏

同時開催展

金剛晴彦 “福井の星空～天体写真に挑む～”

金剛晴彦氏による天体写真展。福井で天体写真を撮り始めて3年。天体写真の面白さや楽しさをお伝えします。



金剛晴彦氏



子持ち銀河 (M51)

展示の見どころ

ワンダフル!!福井の星空風景

福井には思わず「ワンダフル（素晴らしい）!!」と言ってしまふ、美しい星空風景が多く残されています。当館学芸員が2015年から現在まで、福井市近隣で200夜以上に渡って向かい合い、撮りためた福井の星空風景写真を厳選して紹介します。



六呂師高原の天の川
(2020年3月25日 大野市南六呂師)



水田と星空
(2020年5月29日 勝山市野向町)

アートになった星空・宇宙を観察しよう

星空・宇宙の観察には、太陽のように、直接見ると危険なもの、天の川のように、見られる場所が限られるもの、流れ星のように、見る機会が少ないものなど、観察する対象ごとに注意したいことや観察に適した時期、場所、道具があります。作家たちが表現した様々な星空・宇宙について、観察方法と共に紹介します。



太陽黒点の観察



流れ星の観察



作家さん一言紹介

福井にゆかりのある多彩な10人の作家たちの
 星空・宇宙アート作品が集結します。
 様々な作品の表現手法、色や形、質感を通して、
 星空や宇宙の不思議に迫ります。

斎藤 亜紀 (蒔絵師)

蒔絵師として活動され、福井県総合美術展の審査員も務められています。



さいとう かおり (イラストレーター)

フリーイラストレーターとして、越前市で児童書や絵本の挿絵を中心に活動されています。



田嶋 嘉隆 (ガラス工芸家)

丸岡町のガラス工房「スタジオオ嘉硝」で、ガラスペン制作/販売を主に活動されています。



橋本 恒夫 (天文愛好家)

大野市を中心に天文普及活動をしているオヤット天文クラブの会長を務められています。今回は美しい天体写真を展示します。



ひらた ゆうこ (イラストレーター)

手描きの線や色を大切に、冊子や絵本の挿絵、CMの作画等の制作をされています。



もうり ゆかり (陶芸家)

「夕陶房もうりゆかり。」として県内外で個展・グループ展等で活躍されています。



ひであつ (画家)



福井出身で、現在は東京で活動されています。「気持ちの穏やかになれるような絵を届けられたら嬉しいです。」と、メッセージをいただきました。

山岸 登美子 (陶芸家)

福井県自然保護センターで天文指導員をしながら、陶芸家としても活動されています。



吉川 壽一 (SYO Artist)

自由な発想と優れた企画力でスケールの大きな表現世界を開拓。NHK大河ドラマ「武蔵」など、多数の題字を手掛けられています。



まあるい世界に魅せられて

たけい さきよ (天体写真家)

円形の視野を持つ特製のカメラを使って、星空と風景と一緒に写る星景写真と呼ばれる写真に取り組んでいます。今夏、福井市自然史博物館で写真展「まあるい星展」を開催するにあたり、使用しているカメラ、フィルム撮影の魅力についてお伝えします。

●アストロカメラとの出会い

2002年、天文雑誌「月刊天文ガイド」の特集に、天体写真専用カメラHB120の有料部品頒布記事が掲載されました。このカメラは「まあるい」写真を撮れることが特徴で、開発者の日野澤成一さんのお前から「ヒノサワさんちのアストロカメラ」という、かわいい愛称で親しまれています(写真1)。掲載から3年、雑誌で紹介されていた「まあるい」世界感が忘れられず購入に至りました。

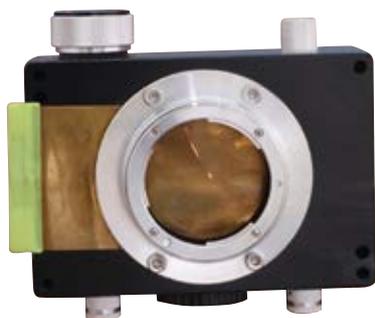


写真1: ヒノサワさんちのアストロカメラ

●不便で非効率から生まれる世界

カメラの構造を紹介します。カメラ本体は金属製の配電盤箱でできており、黒塗装加工がされています。フィルム巻き上げつまみはオーディオ部品を流用し、構図を決めるファインダーはありません。シャッターはボディにある真鍮製の引き蓋をスライドさせる仕組みで、動作はすべて手動のため電池は要りません。特に市販のカメラと大きく異なる点は、ブローニーとも呼ばれる幅の大きなフィルム(フィルム番号120または220)を装填する点です。幅は一般的な35ミリフィルムと比べて大き

《あとがき》

今号では、7月18日から開催の夏季企画展「福井の星空から生まれた星空アート展」の話題を特集しました。本展は、当館学芸員が撮影した福井の星空風景写真のほか、10人の作家さんによる星空や宇宙をモチーフにした多彩な作品、同時開催の写真展など、福井の星空や宇宙の魅力がぎゅっと詰まった展示内容となっています。

私たちが時々見上げている星空に、こんなにも美しく神秘的な世界が広がっているんだなと思うと、とても不思議でわくわくしてきます。ぜひ皆さんも展示を見て、福井の星空や宇宙の魅力を感じてみてください。(中村)

《交通案内》

【電車】

- JR福井駅から徒歩30分
- 福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩20分

【バス】

- 京福バス: 清水グリーンライン(74系統) 足羽山公園下バス停(あじさいの道登る)、不動山口バス停(蔵島神社登る) 各徒歩10分
- コミュニティバスすまいる: 西ルート(足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩10分

《ご利用案内》

- 開館時間 ● 午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
休館日 ● 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始
入館料 ● 高校生以上100円(20名以上の団体は半額)
中学生以下、70歳以上、障がい者および付添の方は無料



写真2: 「まあるい」仕上がりの写真

く、約60ミリもあります。ちなみに120フィルム1本で12コマ、220フィルムでは24コマ程度の撮影が可能です。このカメラとフィルムを使うことで、画像加工せずに、レンズ写野をフルに生かした直径45ミリの「まあるい」仕上がりの写真が得られるのです(写真2)。

●撮影後の醍醐味

撮影が済んだフィルムは写真店に現像依頼をします。仕上がりを待つこと数日、一番のお楽しみは仕上がったフィルム原版をルーペで覗き込む瞬間です(写真3)。どのように撮れているか予測不能で、想像を超えた美しさの時は苦労も忘れてしまうほど。次の撮影アイデアが浮かぶのもこの時が多いように思えます。

●最後に

アストロカメラで星景写真に取り組み始めて15年、使用したフィルムは130本を超えようとしています。まあるい星展では、自宅のある山梨や長野エリアの四季、旅行先で出会った夜の風景、月明かりに照らされた作品などを展示予定です。この夏、不思議な「まあるい」夜の世界をお楽しみいただけると幸いです。

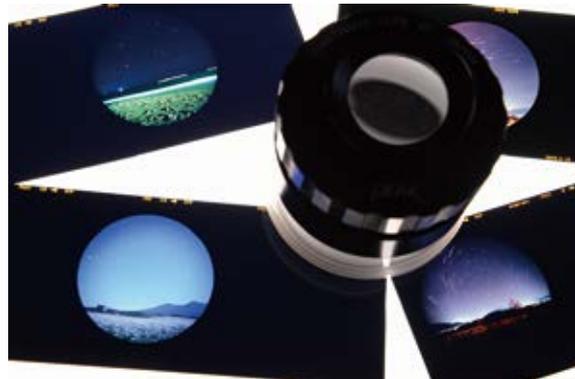


写真3: ライトボックスの上でフィルム原版をルーペで覗き込む様子

